

戸建て住宅を新築する際、窓を小さくしたり、数を減らしたりする動きが進んでいる。窓を減らして家の断熱性を高め、プライバシー確保や防犯性の向上も目指しているのだという。「窓が大きい＝良い家」という考え方が見直されつつある現場を取材した。

(石原宗明)

関心アリ!

■小さな窓に「驚き」

「田舎育ちなので『窓の大きな家が良い家』と考えており、窓の少なさ、小ささに驚いた」。今年3月、名古屋市内に2階建て住宅を新築した男性会社員(41)は、最初に建築家から設計図を手渡された時のことをこう振り返った。図面では、玄関のある北側に窓が一つもなく、2階の部屋には日光を取り入れる細長い窓があるだけ。トイレや洗面所にも窓はなかった。

住み始めると日当たりは十分で、隣の家を気にする必要がないメリットを感じてい

戸建て住宅 窓小さく少なく

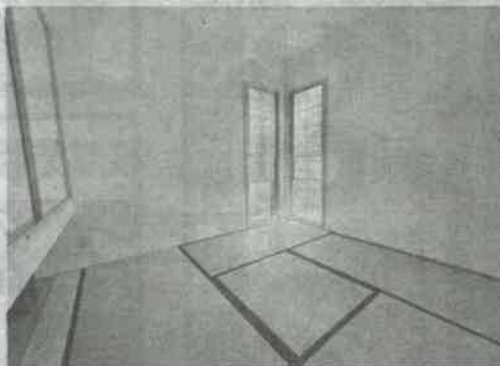
る。「今夏も比較的快適に過ごせた。家全体の機能を考える上で、窓のことを考える必要があると実感した」と話す。

7月に長野県軽井沢町で2階建て住宅を新築した女性会社員(51)は防犯面を重視し、開閉できないはめ込みの窓や細長い窓などを取り入れ、大きな窓は最小限にした。「トイレと浴室に窓はつけていないが、マンション暮らしが長く違和感はない。掃除もしなくてすむ」と語る。

■10年で4・2か所減

窓メーカーなどで作る日本サッシ協会(東京都港区)が今年3月にまとめた、全国の新築戸建て住宅約3000戸の調査結果によると、1戸当たりの窓の数は15・7か所で、2015年の同様の調査と比べて4・2か所減少した。床1平方メートル当たりの数は0・136か所で、15年比で0・027か所減っている。

同協会によると、建築費を抑えるため、窓の面積を最小限に抑える傾向があるとい



長野県軽井沢町の女性会社員宅の1階和室。窓の下半分ははめ込み式＝女性提供

断熱性高め省エネ 防犯性も向上

う。また、住宅に夏場入ってくる熱のうち、窓からが約7割を占めるなど、熱は窓から出入りしており、同協会事務局長の山本英司さんは「高断熱の樹脂窓やトリプルガラスなどもあるが、費用がかかる。断熱材入りの壁の方が窓より断熱性は優れており、窓をなくしてしまおうという選択が広がっている」と説明する。

法改正も窓減らしを後押しする。建築基準法では、居室の床面積に対し、窓などの採光部面積が7分の1以上必要と定めていたが、省エネ施策を進める国土交通省は、これを22年に改正し、一定以上の照明設備を設置すれば、10分の1以上でいいと規定を緩和した。

同省建築指導課は「窓を小さくすることを安易に求めるものではない。ただ、窓が小さくなれば省エネ促進につながるため、規定見直しが行われた」とする。

■工夫で採光目指す

それぞれの間取りに合わ

補助制度で断熱窓

高断熱の窓などを取り入れても国は補助制度を設けている。省は今年度、7段階ある住宅のうち、2番目に高い「6」以上に160万円を支給する補助制が、7月下旬に上限の500億円付けを打ち切った。等級「5」住宅に40万円補助する制度は継続。担当者は「心地よい住環境の大きさは大切。同じような大きな断熱性能を高めることが重要」

今年度、既存の住宅を二重窓などの際の費用を半額程度補助している。

◆住宅1戸当たりの窓の設置箇所

